



京都フィロムジカ  
管弦楽団



第7回定期演奏会  
2000年6月4日  
京都府長岡京記念文化会館



# 京都フィロムジカ管弦楽団

## 第7回定期演奏会

2000年6月4日(日) 2:00開演 京都府長岡京記念文化会館

指揮：遠藤浩史

### PROGRAM

ポール・デュカス / 「魔法使いの弟子」ゲーテの物語によるスケルツォ  
Paul DUKAS L'APPRENTI SORCIER  
SCHERZO D'APRES UNE BALLADE DE GETHE

ガブリエル・フォーレ / 「マスクとベルガマスク」組曲  
Gabriel FAURÉ Masques et bergamasques : Suite pour orchestre, Op.112  
1. Ouverture 2. Menuet 3. Gavotte 4. Pastorale

— 休憩 —

ドミトリ・ショスタコーヴィチ / 交響曲第10番ホ短調作品93  
Дмитрий ШОСТАКОВИЧ ДЕСЯТАЯ СИМФОНИЯ  
I. Moderato II. Allegro III. Allegretto VI. Andante — Allegro

※携帯電話、ポケットベル、アラーム付き腕時計などの電源はお切り下さい。

また、客席でのご飲食・喫煙はご遠慮下さい。

※写真撮影、録音、録画はお断り申し上げます。

## クラシック音楽の海外公演・国際交流

海外での公演・国際交流は、現地でのマネジメントが大切です。  
弊社は日本のオーケストラの海外公演・国際交流を、真の意味で成功させて参りました。  
海外公演・国際交流のお手伝いはおまかせください。

最近の海外公演実績・予定

岡山県桃太郎少年合唱団ドイツ公演98年8月(レーゲンスブルク大聖堂他)  
同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演98年3月(ミュンヘン・ヘラクレスザール他)  
京都市民管弦楽団ヨーロッパ公演99年5月(ウィーン・ムジークフェライン大ホール他)  
ひこねベルリン第九実行委員会99年12月31日(ベルリン・SFB放送大ホール)  
ルーマニア トゥルグ・ムレシュ パッサ没後250年記念音楽祭 2000年5月(文化宮殿)  
同志社大学交響楽団ヨーロッパ公演2001年3月(グラーツ・ステファニーザール 他)

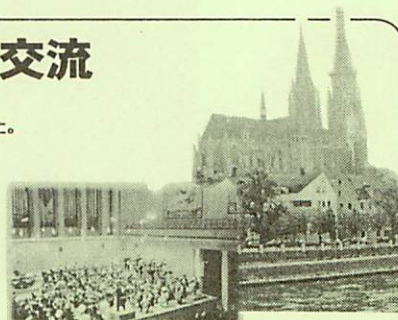
ホームページ：<http://www.mitsuma.com/agent/oversea>

協力会社：ルフトハンザドイツ航空会社、全日空、JTB、近畿日本ツーリスト、AIU保険会社

(社)日本クラシック音楽事業協会会員

(株)ミツマ・ミュージックプロダクツ

〒605-0009 京都市東山区三条通大橋東入ル大橋町102 田中ビル5F Tel.075-761-1213 Fax.075-752-5568



# 熱き演奏に乞うご期待！！

指揮者 遠藤浩史

数年前に「WITH LOVE」というテレビドラマが大変流行っていました。ある人気作曲家が誤って出したメールがきっかけで、OLと恋におちいるというラブストーリーです。

それ以来、インターネットで出逢いをつかむ若者が急増いたしました。私と京都フィロムジカ管弦楽団との出逢いも、それとどこか似ているような気がいたします。私が指揮をしたある演奏会のHPを団員の方がご覧になり、メールを頂いたことがその始まりだったからです。

こういう経験は私にとっても初めてであり、初日の練習が始まるまではとても不安でしたが、彼らは、そのような私の心配を、鮮やかにかき消してくれました。なぜなら、最初の音が出た瞬間に、音楽に対する真面目でひたむきな情熱を、私は感じることが出来たからです。

今回はメインプログラムに、奇しくも没後25年のショスタコーヴィッチの第10交響曲という、日本ではあまり演奏されない曲を取りあげますが、本日ご来場いただいた皆様！魂の底からほとばしり出る、京都フィロムジカ管弦楽団の熱いサウンドで、この隠れた名曲をどうぞごゆっくりご堪能下さい！！

## 遠藤浩史プロフィール



◎ 林喜代種

大阪生まれ。

大阪音楽大学ピアノ科を経て、桐朋学園大学オーケストラ研究生指揮専攻科に学ぶ。在学中指揮を、尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、岡部守弘の各氏に、二重奏、室内楽を金昌国、江藤俊哉、間宮芳生、中山朋子の各氏に、作曲を三善晃氏に、ピアノを山田朋子氏にそれぞれ師事。

卒業後は群馬交響楽団、東京ニューシティー管弦楽団、東京ユニヴァーサルフィルハーモニー管弦楽団、東京合唱協会をはじめとするプロオーケストラ、合唱団に度々客演し、好評を博す。

1992年、南スイスのルガーノが行われた「マスタープレイヤー講習会」においてマスタープレイヤーオーケストラを指揮し高い評価を得ると共に、R. シューマッハー氏より指導を受ける。

1994年より数回にわたりウィーン国立音楽大学助教授の湯浅勇治氏に師事。また東京指揮研究会主催のセミナーにてH. グラーフ、広上淳一の各氏に師事。

1995年12月、埼玉県越谷市で行われた「サンシティー市民合唱団定期演奏会」において、ポール・マッカートニーが初めてクラシック音楽の分野として書き上げた大作「リバプールオラトリオ」を邦人指揮者として初めて取り上げ話題を呼んだ。

その後同合唱団の演奏会では、「メサイア」（ヘンデル）、「ミサ曲第5番」（シューベルト）、「カンタータ第147番」（バッハ）、「四季」（ハイドゥン）等を指揮した。

1996年7月には、ソンバトヘイ（ハンガリー）で行われた国際バルトークセミナーにて、P. エトヴェシュ、R. ホウリハンの各氏に師事。またファイナルコンサートの指揮者に選ばれサヴァリア交響楽団を指揮し絶賛を博す。

昨年11月11日「21世紀プロジェクト第四弾演奏会」として、オーチャードホールにて、新星日本交響楽団にデビューし、大成功を収める。

また同じく昨年より、全日本ピアノ指導者協会主催のコンペティション協奏曲部門の指揮を担当する。

現在、東京指揮研究会幹事、日本演奏連盟会員。

当団のコンセプトの1つに「演奏頻度の低い名曲を」という内容があります。

このコンセプトにより、選曲会議には殆どの団員が知らない曲がたくさん候補に挙げられます。どの曲に投票していいか困ってしまう団員もひょっとしたらいるかもしれません。しかし、個人的な先入観がないぶん、曲のイメージや表現など、全員で1から一緒に勉強することになり、結果、団として統一された演奏ができるのでは、と思います。

我々の演奏によって、皆さんがこれらの曲を知り、気に入って下されば幸いです。

演奏委員 Vc. 小野田 税

世界の銘器をあなたのもとへ...  
あなたのパートナー選びは  
ドルチェ楽器がお手伝いいたします。



管楽器専門店 株式会社 **ドルチェ楽器**  
〒530-0013 大阪市北区茶屋町 1-1 共信梅田ビル 2・3F  
tel 06-6377-1117 fax 06-6377-1233  
営業時間：10:30~19:30 定休日：毎週木曜日  
インターネットホームページ <http://www.dolce.co.jp>

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ 輸入・販売・修理・調整・製作

## イチイヒロキ Violin Workshop

ヴァイオリニスト&製作家として、イタリア生活9年の経験が、あなたの演奏をお手伝いします。弦3割引。魂柱、駒、糸巻きなど軽微な調整はその場で無料にてしております。お気軽にお越しください。

- ◆ 出町店 〒602-0825 京都市上京区寺町通今出川上ル表町31
- ◆ Tel: 075-251-0724 携帯電話: 090-3628-0863
- ◆ e-mail: [hiroki@violin-workshop.com](mailto:hiroki@violin-workshop.com) <http://www.violin-workshop.com>



## Violin Shop

VIOLIN VIOLA CELLO & BOW 販売・製作・修理・調整

### 渡辺弦楽器工房

京都市中京区高倉町上ル福栄町728-4 〒604 ☎075-211-0116  
西宮市大井出町7-23 〒662 ☎0798-70-2006  
FAX 0798-70-2009

Thankyou Print Thankyou Print Thankyou Print

- 印刷物のことならお気軽にご相談下さい
- 見積のみでもOKです
- 親切・丁寧・安心

印刷

## 三究プリント

〒621-0815 亀岡市古世町3丁目9-6  
TEL (0771) 23-7339  
FAX (0771) 24-7945

Thankyou Print Thankyou Print Thankyou Print

## 曲 目 紹 介

---

### デュカス／魔法使いの弟子 ゲーテの詩から

ついに魔法使いの大先生がいなくなった！さて、今度は僕も魔法で命令してみよう。呪文も魔法の使い方も、先生の様子をじっくり見て方法も覚えた。魔法の力で僕も奇跡を起こしてやろう。

魔法の力で水よ沸き立ち、あふれ出よ、大桶より風呂へとあふれ出よ！

さあ今度は箒よ近づいて来い！ぼろ雑巾を持って来い！おまえはずっと召使いだっただ。今日は僕の命令通りに動いてもらうぞ。2本足で立って、頭をを起こして、急いで水を汲んでこい！

魔法の力で水よ沸き立ち、あふれ出よ、大桶より風呂へとあふれ出よ！

すごいぞ！箒が川岸に降りていく。もう川辺にいるぞ。稲妻よりも素早い奴だ。ほら、水を汲んで戻ってきた。もう今度は2度目だ！大桶も壺もみなみと端まであふれんばかりだ！

止まれ、止まるんだ！もう充分だから。—あゝ、しまった！—困った！どうしよう！止める呪文を忘れてしまった。

あゝ！箒をもとに戻す呪文は何だ？あんなに走り回って！おいぼれ箒め、どんどん新しい桶を運んでいるじゃないか！あゝ、あふれた水が大河になって、僕めがけて押し寄せてくる！

いやだ！これ以上我慢できない、ひっつかまえてやる、あまりにいたずらが過ぎるじゃないか！あゝ、心配は増える一方！なんて顔つき！あの眼つき！

なんて奴らだ、地獄みたいだ！家中全部飲み込む気か？扉から窓から水が流れ込んでいるじゃないか。何もわからない、いまわしい箒め！棒きれだったなら、おとなしくしろ！

もしやめないなら、ひっつかまえるぞ、斧投げつけてたたき割ってやる！

何と！まだこんなところを走り回っている！待て、つかまえるぞ！あとひと息だ、もうだめだろう、光る斧で割ってやる。折れたぞ！すばらしい、本当にすごい！見てみろ、真っ二つだ！これで安心、ひと息つける！

どうしよう！困ったな！今度は2つに分かれて動き回っている。立ち働く召使みたいに急いでいる！助けてください、神さま！

まだ箒は走り回っている！広間も階段もどんだなふれる水で一杯だ。なんてひどい洪水なんだ！先生、先生！僕の声を聞いて下さい！—あゝ！先生が帰ってきた！先生、大変なことになってしまいました、僕がとなえた呪文だけれど、もうどうにもおさまりません。

《箒よ、箒、部屋の隅に寄れ！もう終わったのだ。おまえたちを魔法でうまく動かせるのは、この大先生だけなのだから。》

(訳： Va. 平石美緒)

---

---

## フォーレ／「マスクとベルガマスク」組曲

フォーレはサン＝サーンスの弟子であったが、この曲は大変サン＝サーンス的だと思う。つまり、表面上は感情がない。これはメッセージが直接訴えかけられるドイツ音楽とは違い、いかにもフランスらしい曲である。

しかし、フランス的といってもフランスにはさまざまな作曲家がおり、定義は難しく、巷では「フランスのエスプリ」などという安易な言葉でごまかされているのは哀しい限りであるけれども、私はフランス音楽とは「仮面の音楽」だと思う。つまり、本心を明かさない芸術なのである。

例えばサン＝サーンスは、形式という強固な城の中に閉じこもったのであるし、プーランクは躁と鬱（あるいは聖と俗）の二面性によって人の眼を欺き、オネゲルはペシミズムの闇に逃げ込んだからである。

それでフォーレは？という、フォーレは能面のようなと言ったらいだろうか。能面には表情がない。余分なものが削ぎ落とされた抑制の美、簡潔の美である。そして面を向ける角度やちょっとした手のしぐさによって表情を作りあげていく微妙なニュアンスの音楽である。フォーレの音楽もこのようなものであると思われる。

フォーレの音楽がその弟子ラヴェルのものと非常に対照的であることからそれが窺える。フォーレの音楽には色彩は必要でない。非常に抽象的な音楽であり、水墨画の趣であるのに対し、ラヴェルの音楽はその華やかな色彩、つまりオーケストレーションに重点がおかれているのである。

また今回のプログラムであるデュカスとも対照的である。彼の教え子の一人がメシアンであるということからも想起されるように、非常に分厚いオーケストレーションである。その油絵具を塗り重ねたような響きに対し、フォーレはやはり水墨画のような淡い色調である。

以上フォーレの音楽の特質について述べてきたわけだけれども、このようなデリケートな静かな美しさを聴衆の皆様にお伝えすることができれば幸いである。

(曲目推薦者： Ob. 中西充弥)

## ショスタコーヴィチ／交響曲第10番

昔の有名な作曲家たちは、なんとも幸せなことに、社会から離れたところでひたすら音楽だけに専念すればよかったのです。音楽が直接的に社会を映す鏡になることはありませんでした。まあ、作曲家自身の貧困をもろに曲に入れてしまう人はいましたけど。「こんな安い給料じゃやられない」という意図で、実際に演奏者が次々にいなくなってしまう交響曲「告別」(ハイドン)なんでもありましたね。

---

---

1945年は、そう、第二次世界大戦が終わった年です。日本にとっては敗戦でしたが、ロシアにとっては勝利に終わったわけで、ちょうどその年、ショスタコーヴィチは第9交響曲を作ります。作曲家にとっての9番目の交響曲とは、例えばベートーベンのそれのように、特別の意味を持つもので、ロシアの民衆は、戦勝に加えて第9番目の交響曲となるこの曲に期待しました。しかし、ショスタコーヴィチはこんな期待を裏切るのが大好きで、演奏時間22分という小規模な室内楽風の曲を作りました。（そういえば、交響曲第6番の時にも、第5番「革命」のようなものを期待した民衆に肩透かしを食らわせていましたね）

翌年から数年にわたって、スターリンの意図に合わない芸術家は怒られることになります。「音楽は国家人民に奉仕せねばならない」という標語のもと、プロコフィエフ、ハチャトゥリャンといった他の作曲家と共に批判され（ジダーノフ批判）、ショスタコーヴィチは本当に殺されそうになります。独裁者スターリンに殺されてはたまらん、と、ショスタコーヴィチは慌ててオラトリオ「森の歌」や「革命詩人による10の詩」、カンタータ「我が祖国に太陽は輝く」といったものをつくりました。これらの作品のせいで、後にショスタコーヴィチは「体制の御用作曲家」という評価を受けます。そういえば、「森の歌」では党の方針を見事に賞賛していたのを認められ、スターリン賞第1位を取っていましたね。

1953年、スターリンが死にました。さあ、思うように作りたいものが作れます。同志のハチャトゥリャンも芸術への統制を批判する論文を発表し、社会的にも「雪どけ現象」と言われるように思想統制が緩和されていきます。そんな中で作られたのがこの交響曲第10番です。

この曲の3楽章以降には「レーミトドシ」という何とも気持ちの悪いモチーフが現れます。これはショスタコーヴィチのイニシャル、D. III. をドイツ語になおすと、D. SCH. になり、「D(レ)ーEs(ミ♭)ーC(ド)ーH(シ)」というドイツ音名による音列になります。このモチーフは、ヴァイオリン協奏曲第1番作品77の第2楽章、弦楽四重奏曲第5番作品92、弦楽四重奏第8番作品110にも用いられていて、ショスタコーヴィチがこれらの作品に署名をしたと言われています。

ショスタコーヴィチが曲の中で何を言いたかったのか？この署名の意味は？それは今でも闇に隠れたままですし、今後も当分はわからないでしょう。ヴォルコフ編「ショスタコーヴィチの証言」とかいう本が中公文庫からでていますが、最近の研究の成果によりこれは偽書であるという見方が一般的です。ショスタコーヴィチがこの曲で何を訴えたかったのか？それは、作曲者本人が明らかにしない以上、あらゆる解説は邪推になってしまいます。聞きに来て下さった皆様を感じ取ってもらうしかないのです。

(曲目推薦者： Vn. 永徳丈)

# ショスタコーヴィチのユーモア

ショスタコーヴィチの第10交響曲は、初演の時から様々な物議を醸してきた問題作であるが、問題とされる重要な点の一つが終楽章である。第3楽章までは、緊張感と悲愴感を兼ね備えた深く充実した出来映えであり、終楽章も始めはそうした曲相を受け継ぎ悲痛な音楽が展開される。が突然、曲相が陽転したかと思うと、明るいと言うよりは軽薄、華やかと言うよりは空騒ぎに近い音楽がスピーディーに展開される。一時的に前楽章のテーマが深刻に回想されるがそれも束の間、再び陽転すると、ドンチャン騒ぎをしながらあっという間に終わってしまう。深い思索を湛えたそれまでの楽章を受けるにはあまりにも不釣り合いなこの終わり方は、消化不良に陥ったかのような後味の悪さを聴衆に感じさせることになる。

ショスタコーヴィチはなぜこのような終楽章を書いたのか？僕は素直に彼一流のユーモアだと受け取りたい。というのも、ショスタコーヴィチにとって「ユーモア」は単なる笑いでは済まされない特別な意味を持ったものだからだ。それを端的に示す曲として交響曲第13番「バービイ・ヤール」が挙げられる。この曲はエフゲニ・エフトゥシェンコが発表した詩にショスタコーヴィチが音楽をつけて交響曲としたものだが、その第2楽章はまさしく「ユーモア」と題されているのだ。

「・・・ツァーリも王様も皇帝も、どんな支配者たちも、閱兵式の指揮はとれても、ユーモアは指揮できなかつた。・・・ユーモアは不滅だ。ユーモアは抜け目ないぞ。どんな物も、どんな人をも通り抜けていく。ユーモアこそは、勇敢なる人物である。・・・」(注1)

ショスタコーヴィチがこの詩に共感して曲をつけたということから、彼にとってユーモアは最強の武器であったと考えて良い。第10交響曲の場合は、3楽章までで悲痛に歌ってきた問題を、終楽章のユーモアによって笑い飛ばそうとしているように思われる。

それでは、3楽章まででこの曲は何を歌ってきたのか？様々な内容を含んでいるが、その最も大きなテーマは「死」であろう。1楽章では、チャイコフスキーやマーラーといった先人たちが死の象徴として扱った銅鑼<sup>どら</sup>や葬送音楽を思わせるトロンボーンの重奏が効果的に用いられる。2楽章は極めて苛烈な音楽であり、その中に戦争や恐怖政治によって虐殺された人々の死が投影されていることだろう。3楽章では再び銅鑼が死を象徴するが、



---

さらに重要なのはホルンのソロによる旋律である。この旋律はエリミーラという女性の名前からつくられたとされているが（E - A (La) - E (Mi) - D (Re) - A ということか？）、ショスタコーヴィチが彼女に送った手紙に於いて、この旋律は同時にマーラー晩年の傑作『大地の歌』の引用でもあり、『大地の歌』のテーマである「死」を象徴する、と自ら解説しているというのだ（注2）。3楽章の最後で、このホルンの旋律と銅鑼の音に、ショスタコーヴィチ自身を示す音型が絡み合う様からは、死と静かに格闘するショスタコーヴィチの姿が浮かんでくる。

ショスタコーヴィチといえば、体制に対して音楽で抵抗した不屈の巨人としてのイメージでとらえられることが多い。それも確かに一面の事実ではあろうが、そうした紋切り型の解釈では多面的なショスタコーヴィチの全容をかえって見えにくくする。少なくとも僕はこの曲を聴くと、我々と同様に死すべき運命を背負った悲しい人間としてのショスタコーヴィチの姿が見えてくるのだ。

そうしたショスタコーヴィチの死に対する対抗策の一つが、「ユーモア」なのではなかろうか。このフィナーレの強烈な印象は消えることなく聴衆の記憶に残り、その中で作曲者が不滅の生命を託したユーモアが生き続ける。こうしてショスタコーヴィチは自分が生きていたという事実を決して消えることのない形で聴衆の記憶に刻印する事に成功する。たとえ「始まりではなく、正真正銘の終わり。この先にはなにもない」（注3）ものである「死」を迎えた後であっても、ショスタコーヴィチは人々の脳裏に刻まれた「ユーモア」の中で生き続ける。つまり、「死」に打ち勝ったのである。

Tr. 遠藤啓輔

（注1）一柳富美子訳。京都市交響楽団第346回定期演奏会当日配布資料より引用。

（注2）一柳富美子『証言』のあとで『ショスタコーヴィチ大研究』1994、春秋社およびNHK交響楽団第1405回定期演奏会当日配布資料（執筆：千葉潤）を参照。

（注3）ソロモン・ヴォルコフ（水野忠夫訳）『ショスタコーヴィチの証言』（中公文庫）319ページより。同書は偽書との疑いが強いいため無闇に信用するわけにはいかないが、ショスタコーヴィチが死について思い悩む様が描かれている点は興味深い。



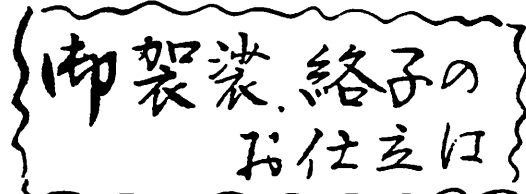
京都府知事登録第6号

# 日本教育旅行

京都市下京区烏丸七条上ル一筋目東入

**0120-040566**

合宿・ゼミ旅行・スキー・海外旅行 etc  
お気軽にご相談ください



京都、日吉町 吉野 隆  
TEL 0771(73)0193

ときめく出会いー湖西の自然  
マキノ高原

みくに館 (本館)  
みくに館山の家 (別館)

春から秋はテニス・各種合宿!  
冬は目の前がマキノスキー場!  
(京都東 I.C. から車で 75 分)

〒 520-1836  
滋賀県高島郡マキノ町牧野  
TEL&FAX 0740-27-1106 (本館)  
TEL&FAX 0740-27-1228 (別館)

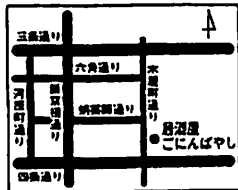


阪急長岡天神駅前  
Tel/Fax 075-951-0362



PM5:00~深夜12:00  
(土・祝日前~AM2:00)

4~100名 宴会受  
中・木屋町四条上ル  
☎(075)221-3517



ゆったりのんびりくつろげます

## 湯楽荘

観光に・仕事に・学生さんの合宿にどうぞ  
近くに市の体育館・競技場・テニスコートあり  
夏は庭で炭火バーベキューを  
楽しんでいただけます

亀岡市科田野町柿花吉岡32 京都交通柿花バス停近く  
☎(0771)22-1030代

都ホテル・新都ホテル専属

岐陽館

# 小林祐史写場

(駐車場有り)

〒604-0991 京都市中京区寺町通丸太町下ル  
電話 (075) 231-1471  
FAX (075) 231-1471



For School, Business or Pleasure  
ア・ブ・ク・ド・イングリッシュ スクール  
小学生から大人迄の英語専門教室  
〒607 地下鉄 東西線 御陵駅 下車  
徒歩 3分 協和荘301~302

TEL + FAX 075-593-4426



# 京都フィロムジカ管弦楽団

Kyoto Philomusica Orchestra

## Violini

天澤 天二郎  
井上 あゆみ  
井上 理恵  
永徳 丈  
越後 美和  
大八木 文人  
萩野 衣美子  
小幡 拓也  
川島 武士  
木下 知子  
小段 南人  
田村 うらら  
津田 和子  
津田 篤太郎  
中島 円  
西村 浩輔  
藤本 亜美  
南方 一晃  
宮下 康子  
吉野 仁子  
吉村 良和  
吉本 光佐

## Viola

河上 由香里  
篠崎 淳  
竹歳 環  
平石 美緒

## Violoncelli

海野 香織  
小川 優香  
小野田 税  
菊地 涼  
小松 正明  
田中 智之

## Contrabassi

今城 和久  
John Greenhalgh

## Flauti

逸見 正憲  
政岡 潤平  
松村 朋美  
(Piccolo)

## Oboi

中西 充弥

## Clarinetti

武田 勝正  
田中 慎一郎  
(Clarinetto basso)  
野田 瑠美  
(Clarinetto piccolo)

## Fagotto

高山 泉  
田中 裕美子  
廣岡 美紀

## Corni

芦原 俊平  
木下 洋輔  
桑野 亜紀子  
長岡 武志  
安田 聖  
吉野 文彦

## Trombe

遠藤 啓輔  
濱田 篤  
村上 明日香  
渡辺 美智子

## Tromboni

島川 英介  
菅山 三城  
野田 秀一郎  
宮下 秀行

## Tuba

坪内 大輔

## Timpani

永野 貴子

## 顧問

和田 之宏

## 演奏委員長

長岡 武志

## コンサート実行委員長

逸見 正憲

## 事務局長

松村 朋美

## 事務

伊吹 勇亮

## コンサートマスター

Dukas

天澤 天二郎

Fauré

田村 うらら

Shostakovich

永徳 丈

## 弦トレーナー

吉野 美穂 京都市立芸大卒。ヴァイオリンを木村直子、岸辺百百雄、室内楽を種田直之、河野文昭、久合田緑の各氏に師事。

## 管トレーナー

石橋 耕三 東京芸術大学卒。お茶の水女子大学附属中学校講師を経て、京都市交響楽団入団、現在に至る。クラリネットを三島勝輔、千葉国夫、浜中浩一の各氏に師事。

## 管トレーナー

山崎 雅夫 京都大学卒。京都大学交響楽団金管・打楽器トレーナー。トランペットをC. マクベス、A.ハーゼス、M.アンドレの各氏に師事。

# 第 8 回 定期演奏会

2000年12月10日(日) 京都コンサートホール

別宮貞雄／祝典序曲

マーラー／交響曲第5番

指揮：金子建志

## 賛助会員募集中

フィロムジカの活動に協賛して下さる方を募集しています

〈特典〉

年2回の定期演奏会にご招待  
会報にて演奏会などのご案内をします

〈年会費〉

個人会員：4,000円/1人  
Jr.会員(高校生以下)：2,000円/1人

興味がありましたら

廣岡—Tel. 075-682-8175

政岡—Email gh0038@mail2.doshisha.ac.jp までお気軽にどうぞ

## 新入団員募集中

〈募集パート〉

ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ,  
コントラバス,  
オーボエ, ファゴット, ホルン  
(管楽器はオーティションあり)

<スタッフ同時募集>

〈活動〉

毎週日曜日 午後1時~5時  
河原町丸太町周辺(ここに事務局があります)  
入団費 5,000円 団費 3,000円/月

社会人と学生と一緒に頑張っているオーケストラです

連絡先 河上 { Tel. 075-744-2158

{ Email yukarikk@hkg.odn.ne.jp